

英国の選択

97総選挙

▶5◀

メイジャー首相が5月1

日の総選挙実施を発表した翌日、英国で最大の発行部数を誇る日刊大衆紙「サン」の1面は「サンはブレア(労働党首)を支持する」というベタ黒見出しで埋まり、読者をして「あのサンが」と驚かせた。

最後まで接戦を演じた5年前の前回総選挙でサンは投票日当日に、キノック労働党首(当時)の顔を電球に見立てて「最後に英国を去る人は明かりを消して下さい」との見出しで労働党政権拒否を呼びかけたことが今でも語り草になっているからである。

最後まで接戦を演じた5年前の前回総選挙でサンは投票日当日に、キノック労働党首(当時)の顔を電球に見立てて「最後に英国を去る人は明かりを消して下さい」との見出しで労働党政権拒否を呼びかけたことが今でも語り草になっているからである。

ブレア党首側近のアラスデア・キャンベル報道官(元ミラー紙政治部長)は、保守党の地盤であるイング

を伸ばす上で大きい。サンはライバルであるミラー紙も「保守党は18年前『労働党政権は機能していない』とのスローガンで政権に就いた。今、機能していないのは英国である」との社説を掲げ、ブレア支援を表明している。

ダイアナ妃離婚に至る王

年、マードック氏の地元オーストラリアに招かれ講演を行い、関係改善を行ったともいわれているブレア氏は「政権を取ってもマードック氏の影響に左右されない」と言明している。

ブレア支持を表明した3月18日付の「サン」社MORのロバート・ウィスター社長は「サンはブレア支持表明が話題になったが、何もサンが読者をリードしているのではない。市場調査ではサンは読者の56%が労働党支持だった。

新聞もブレア支持大勢



ウースター・MORI社長

ランド中部の声を代弁するサンとデリー・メールは党にとっても重大な新聞であることを認めている。そのサンが今回は「我々を奮い立たせてくれるビジョンと勇気を持ったブレア氏が指導者として最適だ」と宣言してくれたのだった。やはり「サン効果」は支持率

を伸ばす上で大きい。サンはライバルであるミラー紙も「保守党は18年前『労働党政権は機能していない』とのスローガンで政権に就いた。今、機能していないのは英国である」との社説を掲げ、ブレア支援を表明している。

年、マードック氏の地元オーストラリアに招かれ講演を行い、関係改善を行ったともいわれているブレア氏は「政権を取ってもマードック氏の影響に左右されない」と言明している。

ブレア支持を表明した3月18日付の「サン」社MORのロバート・ウィスター社長は「サンはブレア支持表明が話題になったが、何もサンが読者をリードしているのではない。市場調査ではサンは読者の56%が労働党支持だった。

労働党勝利を予期している。だが、与野党差は80前後にならな地滑りの勝利を望まなっている。【ロンドン・三瓶良一】

自由民主党は健闘しそう



ルパート・マードック氏

1931年 豪州生まれ。父の新聞社を引き継いだ後、各地の新聞社を買収し、79年に「ニューズ・コーポレーション」を設立。その後、世界の新報・出版・放送企業を買収、同社を複合メディア企業に成長させた。米ニューヨーク・ポスト紙や米20世紀フォックス、香港スターテレビも傘下。

後、世界の新報・出版・放送企業を買収、同社を複合メディア企業に成長させた。米ニューヨーク・ポスト紙や米20世紀フォックス、香港スターテレビも傘下。

英国の民主主義

第二部 選挙戦

今回の英選挙で新聞紙上などにさかんに登場している言葉にスピン・ドクターという言葉がある。多くの英国民にはまだ耳慣れないが、選挙のいろいろな作戦展開を自陣営に有利に演出する宣伝マシンの責任者のことをいう。

米國政治からの輸入語で、選挙で多用されているが、政治一般の中でも使われる。政治指導者の政策、演説などの宣伝効果を高められるようスピン（紡ぐ、回転させる）する役割を担った参謀や補佐官、報道官までも含めた関係者の総称でもある。マスコミ対策もむろん彼らの仕事である。「サン紙の労働党支持宣

言は、同党のスピン・ドクターとサン紙経営者マードック氏との接近の産物。サンの最大の発行部数を誇る

タブロイド判大衆紙サン（約四百萬部）が、総選挙が決まった翌日の先月十八日、大々的に労働党支持を打ち出したことについて、内幕話を切り出した。オーストラリア出身のルパート・マードック氏は、十年前から見限っていたといわれた。その後も秘密会談が行われたが、九五年夏、ブレア党首は、オーストラリアで政治色が濃いわけではなかった。グリーンズ・スレード氏が行われた、マードック氏が主宰するグループ企業の最高の経営者会議に招かれ、自分（約四百萬部）やデイリー・メール紙などは保守党支持しているという考え方を示しているという考え方を示している」と主張する。

色分けされるマスコミ

意見の多様性、国民に提供



これまで保守党支持だったが、労働党支持への転換を一面で打ち出した「ザ・サン」（3月18日、ロンドン市内で鈴木竜三撮影）

ズ紙副編集長の経験もあるグリーンズ・スレード氏によると、マードック氏は、保守党サッチャー前首相の自由主義革命の熱烈な信奉者で、その後継者のメージャー政権が勝利した九二年選挙では保守党支持を宣言したものの、メージャー首相の優柔不断さに嫌悪感を抱き、これを支持したり反

左右することもある」という。マードック系新聞だけが今回も保守党支持を表明しなかった。グリーンズ・スレード氏はい。一般紙では、最大部数かたに中立性から批判の声を認めるながら、保守党支持と、社説などで支持（第部おわり、第三部は5月3日付から始まる予定）

日本の場合

新聞は公職選挙法上、自由な報道のみならず、特定の政党や候補者の支持表明もしようと思えば、ほこんどの新聞が「公正」「不偏不党」などを社説や欄頭に掲げているとはいえず、個々の政策、候補者の人物、経歴、政見などを報道した国紙に限って言えば、そ